



「ふつうってなに？」

校長 三浦 伸之

2月になりました。暦の上では立春を過ぎていますが、8日(日曜日)の午前中は関東でも雪が降りました。選挙の日でもあったので、出かけるついでに駐車場に行き、車の雪を落としておこうかな。とも考えたのですが、寒さと面倒くささが相まって、「ま、いいや」となりました。翌月曜の朝、出勤しようとして駐車場に行ったら、案の定、車のフロントガラスには5cm程の雪が積もっていました。手で雪を払おうとしても、内側は氷になっているため払うことができません。車のエンジンをかけ、デフロスターを最大にし、氷結を溶かすスプレーをかけ、「昨日の俺のばか」と心で昨日怠け者だった自分を叱りながら、20分かけてようやく発進。私のように北国出身者はふつう、雪への対処法は得意分野なはずですが、すっかり油断してしまいました。

さて、私も今、何気なく「ふつう」という言葉をこの文で使っていますが、この「ふつう」って一体何なのでしょう。以前、部活の顧問をしている時に生徒とカレーライスの話になったことがあり、「みんなの家のカレーってどんなカレー？」と聞くと多くの生徒が、「ふつうです。」と答えました。私の中での「ふつうのカレー」は玉ねぎ、にんじん、ジャガイモ、肉がごろっと入っているものですが、「ふつう」と答えた生徒によくよく聞いてみると、「シーフード」とか「ひき肉(キーマ?)」とか中には「具がない(溶かしている)」などという生徒もいて、私と同じ感覚の生徒から「全然ふつうじゃないじゃん」と言われ「え?そーなの?」とキョトンとしていました。調べると「ふつう」とは個人の基準や習慣となっていて、あくまでも個人的な感覚のようです。しかし、よく「ふつう〇〇だね。」というように、あたかもそれが正しいように「ふつう」という言葉を私も使ってしまう。でも、これってあくまでも自分の価値観だし、この言葉を投げかけられた相手は、ひょっとすると「私ってふつうじゃない?」と悩んでしまうかもしれないと考えると、「ふつう」という言葉を使うときには気をつけなければならないと思いました。アインシュタインは普通(常識)(※厳密に言うと普通と常識は違います。ふつう=個人的なもの、常識=社会や集団的なもの)を「18歳までに身につけた偏見のコレクション」(育った環境や教育によって植え付けられた先入観)だと。さらに、「普通と言われる人生を送る人間なんて一人としていやしない。いたらお目にかかりたいものだ。」と言っています。確かに、人の人生は十人十色。「ふつう」などという言葉では表すことはできませんよね。人はそれぞれでいいんです。なので、北国出身の私が、雪で苦労してもいい。ということにしておきましょう。(ただ、面倒くさかっただけの怠け者です)

先日、1年生と一緒に川越に校外学習に行ってきました。自分たちで協力して電車に乗り、川越の街を散策し、蕨駅まで帰ってくるというものです。私が一番素晴らしいと思ったのは、何よりもマナー。電車の乗り方、散策の仕方、おやつを買って食べ歩きしている時、人として守らなければならないことをしっかりと守りながら、とても良い顔で過ごしていました。また、とってもフレンドリーで、会うと食べているアイスを、「校長先生も一口食べますか?」と差し出してくれたり(丁寧に断りましたが)手を振ってくれたり。学年みんなが一つになって、この行事を成功させようという思いが伝わってきた、そんな郊外学習でした。1年生のみなさんは、この行事を通して大きく成長したと思います。その成長を、今後の生活に活かしてくださいね。

最後に、3年生にとって大切な受検が迫ってきました。とにかく、健康管理にだけは気を付けて、当日全力が出せるように準備をしてください。「平常心」を心掛け頑張ってください。心から応援しています。